

様々な困難に直面している子どもたちが安心して過ごせる環境整備へ貢献

「日本財団チャリティー自販機」を 当社グループ 4 拠点のオフィスに設置しました

「未来の常識を創り出し、人々の生活を変えていく」をグループ理念に掲げ、全国に 3,400 店舗超のドラッグストア・調剤薬局を展開する株式会社マツキヨココカラ & カンパニー（本社：東京都文京区、代表取締役社長：松本清雄）は、当社グループが進めるサステナブル（持続可能）経営の実践に関する取り組みを以下の通りお知らせいたします。

このたび、すべての子どもたちが、未来への希望を持ち、これからの社会を生き抜く力を育むことのできる機会と環境を提供する公益財団法人 日本財団の事業に賛同し、日本財団チャリティー自販機を当社グループの湯島オフィス、御茶ノ水オフィス、新松戸オフィス、新横浜オフィスの 4 拠点に 2022 年から順次設置いたしました。

■日本財団チャリティー自販機について

自動販売機を利用する従業員やお取引先様、お客様に社会貢献や寄付を身近に感じてもらえるように飲料 1 本につき 10 円を社会貢献プロジェクトに寄付ができる自動販売機です。これまでに全国で 8,300 台以上が設置され、寄付に関しては、間接費を使わず 100% 全額が「日本財団子どもサポート基金（第三の居場所）」「災害復興支援特別基金」「海と日本プロジェクト」「HEROs」に活用されています。

■寄付金額について

設置から約 1 年間が経ち、今回も将来の自立に向けた社会貢献である「日本財団子どもサポート基金（子ども第三の居場所）」へ **734,870 円** を寄付いたしました。



■子ども第三の居場所について

子どもたちの困難は家庭や学校だけでは対応が難しく、そもそもの困難が家庭や学校に起因する場合があります。そこで、子どもたちが孤立しやすい放課後の時間、家庭や学校以外の場である「子ども第三の居場所」で過ごすことで、信頼できる大人や友達と安心して関わりながら、将来の自立に向けて「生き抜く力」を育みます。



子どもの抱える困難は非常に見えにくいいため、関係機関が連携して子どもの状況を共有しながら支援につなげるアウトリーチを行うとともに、課題に応じて専門機関につなげることが重要です。「子ども第三の居場所」は、学校や地域、専門機関と積極的に連携し、「誰一人取り残さない地域子育てコミュニティ」のハブとしての機能を担っています。

<https://www.nippon-foundation.or.jp/what/projects/child-third-place>



●当社グループが本件により貢献する SDGs 目標



●当社グループの統合報告書 2023

https://www.matsukiyococokara.com/sustainability/integrated_report/

Find your “!”” wOW

株式会社マツキヨココカラ&カンパニー

3,400 店舗超のドラッグストア・調剤薬局を中核事業として、全国で展開している東証プライム市場上場企業。子会社としてマツモトキヨシグループとココカラファイングループを擁し、「美と健康の分野でアジア No.1」の企業グループを目指しています。介護事業、インターネット通販事業など幅広く展開しています。

コーポレートサイト：<https://www.matsukiyococokara.com/>

株式会社マツキヨココカラ & カンパニー グループ経営企画統括 広報室

Tel : 03-6672-7808

mail : mkccpr@matsukiyococokara.com

